

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（1）「る・らる」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

意味 活用形

- ① 目も見えず、ものも言は れ ず。
- ② 宇治の左大臣殿は、東三条殿にて行は る。
- ③ 住み慣れしふるさと、限りなく思ひ出で らる。
- ④ いふままにはから る 人あり。

④	③	②	①
形	形	形	形

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（2）「す・さす・しむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 愚かなる人の人の目を喜ば しむ 樂しみ、またあぢきなし。
- ② 新院のおりゐ させ<sup>a</sup> 給ひての春、詠ま せ<sup>b</sup> 給ひけるとかや。
- ③ 「帝は竹取の家を」空ける隙もひまなく守ら す。
- ④ おほやけも行幸せ しめ 給ふ。
- ⑤ 月の都の人まうで来ば捕らへ させ む。

② b	② a	①		意味	活用形
⑤	④	③		意味	活用形

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(3) 「き・けり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① さやうの人の祭見 し<sup>a</sup>さま、いとめづらかなり き<sup>b</sup>。
- ② 偽りの涙なり せば 唐衣しのびに袖はしぼらざらまし
- ③ 興なくおぼえければ、鉢に植ゑられ ける 木ども、みな掘り捨てられにけり。
- ④ 「これは、龍のしわざにこそあり けれ。」

	① a	意味	活用形
	① b		
②			
	③	意味	活用形
	④		

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(4) 「つぬたりり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 送りに来つる人々、これより皆帰り ぬ。
- ② 海さへおどろかして、波立て つべし。
- ③ 泣き ぬ笑ひぬぞしたまひける。
- ④ 今朝まぎれ出でて、かくなつてこそ参り たれ。
- ⑤ 集まれる人ども、一度に「は」と笑ひ たるまぎれに、逃げていにけり。

	①	意味	活用形
	②		
③			
	③	意味	活用形
	④		

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(5) 「ず む むず」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 死の近きことをも知ら ず<sup>a</sup>、行ふ道の至らざるをも知らず、身の上の非を知ら ね<sup>b</sup> ばく
- ② かの国元より迎へに人々まうで来 む<sup>ず</sup>。
- ③ やがて掻きつくままに、頸のほど食は む とす。
- ④ 「忍びては、参り給ひな む や。」
- ⑤ 落人のあら んずる をば、用意してうち殺せ。

②	① b	① a	意味	活用形
⑤	④	③	意味	活用形

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(6) 「らむ けむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 「鸚鵡ハ」人の言ふ らむ<sup>a</sup> ことをまねぶ らむ<sup>b</sup> よ。
- ② いかでかばかりは知り けむ。
- ③ 知りたることも、なほさだかにと思ひてや問ふ らむ。
- ④ みづからはいみじと思ふ らめ ど、いと口惜し。
- ⑤ さることはべり けむ。

②	① b	① a	意味	活用形
⑤	④	③	意味	活用形

組 番氏名
----------



古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（9） 「めり なり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 宰相さいしやうの中ちゆうじやう 将しやうこそ、参まゐりたまふ なれ。
- ② 法華堂ほつげなどいまだはべる めり。
- ③ すだれ少し上げて、花奉はなほうり めり。
- ④ また聞きけば、侍従じじゆうの大納言だいなごんの御娘おんながら亡なくなり給たまひぬ なり。

	意味	活用形
①		
②		
	意味	活用形
③		
④		

組 番氏名
----------

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（10） 「じ まじ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① わが身みは女をんななりとも、かたきの手てにはかかる まじ。
- ② 冬枯ふゆかれのけしきこそ、秋あきにはをさをさ劣よる まじけれ。
- ③ 妻めづめといふものこそ、男おとこの持もつ まじき ものなれ
- ④ 法師ほうしばかりうらやましからぬものはあら じ
- ⑤ 人のたはやすく通とほふ まじから む所に、跡あとを絶とえて籠こもりゐなむ
- ⑥ 勝かちたむとうつべからず、負まけ じ とうつべきなり。

	意味	活用形
①		
②		
③		
	意味	活用形
④		
⑤		
⑥		

組 番氏名
----------

